



# 青 於

9月号



## サマースクール (7/25~27)

夏休み最初の週に、低・中・高学年ごとに分かれてサマースクールを実施しました。どの教室を回っても、おしゃべりしている児童が一人もいなく、誰もが静かに勉強をしていました。おしゃべりをしないで、きちんと勉強することは、当たり前のことですが、当たり前のことが当たり前に行えるということは、とても素晴らしいことです。



## PTA奉仕作業 (8/25)

早朝より奉仕作業にご協力いただき、ありがとうございました。おかげで、学校の敷地内がとて

もきれいになりました。2学期の始業式の話の中で、子どもたちに、「みんなで協力すれば、短い時間でも、何でもできる」ということを話しました。



## 2学期始業式 (9/3)

一人の欠席者もなく、児童全員が始業式に登校できました。日焼けをしている子が多く、心と体が一回り大きく感じられました。久しぶりに、元気な子どもたちの姿をみることができ、とてもうれしかったです。これも、保護者の皆さまや地域の方々のご尽力の賜と、感謝しています。子どもたちには、今日から始まる2学期も「自分のよいと思ったことに、チャレンジ」して、児童指標である「さ・い・こ・う・の・こ」を目指して、頑張ってもらいたいと思います。



## 地震の避難訓練 (9/6)

地震が起きたときに、ケガなどをしないで、素早く、安全に、避難できるようにするために訓練を行いました。7年半前に東日本大震災が起こりましたが、今日は、児童全員が起震車を使ってそのときと同じぐらいの強さの地震を体験しました。地震の恐ろしさが分かり、良い経験ができたと思います。また、地震や火災が起きたとき、「どのように避難すればよいか」という、「おかしもち」という合い言葉についても確認しました。

同日、児童全員が起震車を使ってそのときと同じぐらいの強さの地震を体験しました。地震の恐ろしさが分かり、良い経験ができたと思います。また、地震や火災が起きたとき、「どのように避難すればよいか」という、「おかしもち」という合い言葉についても確認しました。



## 朝会の話(9/10)「よい学校とは」

松下幸之助さんは、「松下電器」という会社を作った人で、「ナショナル」というブランド名で、電化製品を作っていました。販売促進のために「ナショナル坊や」というキャラクターがいました。平成20年に、社名を「パナソニック」に変更したので、この名前は聞いたことがあると思います。また、松下さんは、東京・浅草の浅草寺にある雷門と提灯を寄付したことで有名です。

松下さんは、「よい店か、悪い店かは、3つのことを見ればわかる」と言っていました。それは、「お店の人がきちんとあいさつをしているか」「お店の中が整理整頓できているか」「お店のトイレがきれいに保たれているか」です。つまり、「当たり前前のことが、当たり前前にできている店」が、よい店だということです。

それでは、大内西小が『よい学校』と言われるようにするためには、どうすればよいでしょう。校長先生が考えた『よい学校』は、「元気なあいさつができる」「教室や廊下に、ゴミが落ちていない」「教室のロッカーがきれい」「掲示物がきちんと貼ってある」「はきものがそろえてある」の5つです。

大内西小の子どもたち全員が、友だちやお客さんに元気なあいさつをしたり、教室や廊下にゴミが落ちていたら拾ったり、自分のロッカーをきれいにしたり、壁に貼ってある掲示物がはがれていたらきちんと貼ったりできると、今まで以上に大内西小は、『よい学校』と呼ばれるようになります。みんなで、頑張りましょう。



## 秋季大運動会 (9/15)

子どもたちは、もてる力をすべて出し切り、全力で競技を行ってくれたので、運動会を見にきてくださった、保護者や地域の皆様などに、感動を与えられたのではないかと思います。また、保護者のご協力により、運動会が大成功に終わることができました。ありがとうございました。

